

構成		単元		内容
I	導入 (全体を俯瞰するために)	I. 1	オリエンテーション	復活の信仰に生きる：それを確かめ、ともに祝う行為としてのミサ 祈りと識別への歩み 詩編23が語る信仰者の姿 はじめに覚える祈り（主の祈り・アヴェ・マリアの祈り・栄唱・使徒信条） 今年度のスケジュールと全体の流れ
		I. 2	「カトリック教会のカテキズム」の意味	カトリックであること：多様性と普遍性に生きる 教会は一・聖・公・使徒的であること 「わたしが信じます」から「わたしたちは信じます」へ 第2バチカン公会議と教皇そしてシノドス カテキズムと一問一答（ヨハネ問答）の形式 聖書と聖伝／背景としての信仰共同体 リヨンのエレナイオスの理解＜信仰の遺産＞ 信仰の遺産を受け継いでいく中でその理解を深めていく作業が神学 カテキズムの用語をその源泉である聖書から考える
		I. 3	信仰と理性は両立する	回勅「信仰と理性」から 極端な神秘主義でも極端な合理主義でもない。 （アウグスティヌス・カンタベリーのアンセルムス・トマス・アキナス） グノーシス主義やカルトとの相違 神の恵みによって助けられていく：ペラギウス論争：原罪と自由意志 聖母マリアの理解：教会の母として、わたしたち信じる者の模範となる方 みことばをとりなす方（カナの婚礼）

II	復活の物語を読む	II. 1	ことばの意味合いから	復活の体験を単純化してはいけない。救いの歴史のなかで現わされた神秘（啓示） よみがえるという現象だけで理解すると誤解する もとの言葉の意味合いから理解する：立ち上がる・起き上がる・目を覚ます パウロの復活理解(Rom1:4, I Co15:42)と「弱いときにこそ強い」の意味(II Co12:10)
		II. 2	受難物語の中のペトロとイスカリオテのユダ	ペトロ(マルコ14:27-31,14:66-72)と ユダ(ヨハネ13:21-30,マタイ27:1-10)を分けたものは何か？
		II. 3	空の墓の出来事	マルコ福音書が伝える復活体験：空の墓での婦人たちの姿(マルコ16:1-8) マグダラのマリアの体験(ヨハネ20:11-18)
		II. 4	弟子たちの復活体験と聖霊降臨	3度にわたる復活された主との出会い(ヨハネ20章～21章) エマオへの旅から主の昇天・聖霊降臨の出来事へ(ルカ24:36-53,使徒言行録2)
		II. 5	復活を証言する教会とキリスト理解	キリスト賛歌(フィリピ2:6-11)とロゴス賛歌(ヨハネ1:1-18)
III	ミサと秘跡を理解する 主の食卓を囲むために	III. 1	復活された主がわたしたちに託されたもの	復活した主を信じる弟子たちが想い起こした主の晩餐の記念：聖体の秘跡 「わたしの記念として」(ルカ22:19, I コリント11:24) ミサの意味(lte.missa est.)：キリストから派遣される者として生きる 秘跡：目に見えない神の恵みを目に見えるしるしとことばを通して表現
		III. 2	全体の構成を俯瞰する	八日目ごとに復活の神秘を祝うこと：典礼暦 主の食卓を囲む(みことばと聖体を糧とする)：ことばの典礼と感謝の典礼 ミサに与るからミサをともに祝うへ：祈りと奉仕の中での典礼表現
		III. 3	開祭と閉祭	開祭：三位一体の交わりの中へ入っていく：「み名によって」の意味 イエスの告別説教(ヨハネ14章～17章)によって理解する三位一体 パウロの三位一体の招きの言葉(II コリント13:13)

		<p>なぜ改心ではなく回心と表現するのか？罪深いわたしとは？</p> <p>→ ゆるしの秘跡：罪理解／告白すること／ゆるし理解</p> <p>放蕩息子のたとえ／ダビデの出来事／詩編51</p> <p>教会の奉仕の務めを通してゆるしが与えられることの意味／償い</p> <p>いつくしみの賛歌と栄光の賛歌</p> <p>閉祭：父と子と聖霊の祝福によって日常に派遣されていく</p>
III. 4	ことばの典礼	<p>信仰は聞くことから始まり、良い知らせを告げていく（ロマ10:8-17）</p> <p>救いの歴史を物語る聖書：神のことばとそれに応えていく信仰者の祈り</p> <p>→イエスによって新たに創造されていく</p> <p>聖書の成立過程と文書配列の意味を考える</p> <p>信仰宣言としての使徒信条とニケア・コンスタンチノーブル信条</p>
III. 5	感謝の典礼	<p>イエスの制定の言葉とエウカリティア：感謝の賛歌と平和の賛歌</p> <p>パンとぶどう酒の供え物</p> <p>神から与えられた糧によって生きるわたしたちが感謝を捧げる</p> <p>聖霊による聖別の祈り（エピクレーシス）</p> <p>キリストの奉献を記念し思い起す祈り（アナムネーシス）</p> <p>栄唱（ドクソロジー）</p>
III. 6	感謝の典礼・交わりの儀	<p>主の祈りの構造</p> <p>交わり（コムニオ）としての平和の挨拶と聖体拝領</p>

				<p>キリストのからだとなっていくわたしたち：パウロの理解</p> <p>交わりの秘跡としての叙階と婚姻の秘跡</p> <p>→叙階の秘跡</p> <p>聖なる者とされた人々（教会共同体）と召命（1コリント1:1-9,18-31）</p> <p>聖職者位階制度（助祭・司祭・司教）と組織から見た教会</p> <p>→婚姻の秘跡</p> <p>カナの婚礼の出来事／ことばが出来事となっていく</p> <p>婚姻の絆（唯一性と不解消性）が法の保護下にあることの意味</p> <p>イシュとイシャーの関係性・二人は一体となる／人格的交わりの完成</p>
IV	マルコ福音書を読む	IV. 1	神の子イエス・キリストの福音の初め	イエス理解「神の子」「キリスト（メシア）」理解
	イエスの言葉と行いを知る	IV. 2	主の洗礼と主の十字架	3つの要素の共通点とコリント書に見るパウロの理解
		IV. 3	弟子の召命と奇跡物語	<p>イエスご自身がわたしたちを探し求め、神のみ前に立つ者へと導かれる</p> <p>→ 病者の塗油の秘跡</p> <p>詩編130／終油から病者の塗油へ</p> <p>ヨブの体験／「タリタクム」の出来事／癒し理解</p>
		IV. 4	5000人と4000人と糧を分かち与える物語	主の晩餐の出来事へとつながっていく：聖体の秘跡
		IV. 5	敵対する人々との対話	旧約聖書の解釈を取り違えていく周囲の人々反応：神の似姿としての人間理解
		IV. 6	受難物語：ゲッセマネの祈り	<p>み心に従うイエスの姿／主の僕の歌</p> <p>→祈りのあり方</p>

V	待降節と降誕節	V. 1	主降誕物語を読む	待降節から新しい年（2026年はA年）がはじまる マタイ1章2章ルカ1章が伝える主の降誕の出来事を味わう
		V. 2	主の来臨を待ち望む	新し天と新しい地／最後の審判：四終（死・審判・天国・地獄）と煉獄
VI	四旬節と聖週間	VI. 1	四旬節	灰の水曜日：大斎小斎 四旬節の意味：洗礼の準備としてのカテケーシス 福音（荒れ野の試み・主の変容・サマリアの女・生まれながらの盲人・ラザロ）
		VI. 2	聖なる三日間の考え方	聖木曜日・聖金曜日・（聖土曜日）・復活の主日
		VI. 3	復活徹夜祭における洗礼・堅信・聖体・（転会）	式次第の解説
VII	生活の中の信仰 「行きましょう。主の平和のうちに (Ite, missa est)」	VII. 1	イエス・キリストから遣わされていく者になる	「善い先生」と尋ねていく金持ちの人（マルコ10：17~31）／十戒 聖人とわたしたち／良心と徳：倫理と道徳を考える 現代世界憲章（司牧憲章）の概要と預言職の役割
	王職（牧職）と預言職	VII. 2	教会に所属することの意味	王職（牧職）における責任の自覚と自由意志 共同体をかたちづくりつづけるもの・祈りと奉仕の精神 共同体の一員としての役割／教会の5つの掟を考える 宣教の歩みと第2バチカン公会議以降のこれから 教会の台帳に記録されていく （洗礼台帳・堅信台帳・婚姻台帳・死亡台帳） 教会へ転出と転入の記録（信徒籍台帳）
VIII	最後のまとめ	VIII. 1	1年間の講義を通して	洗礼に向けて／振り返り 詩編23／わたしの人生を復活されたイエス・キリストとともに生きる